

令和元年 7月
下野市教育委員会

平成31年度とちぎっ子学習状況調査の下野市の結果は、小・中学校の全教科で、「基礎・基本」、「思考・判断・表現」とともに県の平均正答率を上回る結果となりました。また、小・中学校の全教科・全領域で、県の平均正答率と同程度、または上回る結果となりました。

①教科に関する調査

- <問題別> 「基礎・基本」の問題
 「思考・判断・表現」の問題

- <領域別> ◇ 国語（小） 4領域
◇ 算数（小） 4領域
◇ 理科（小） 2領域
◇ 国語（中） 4領域
◇ 社会（中） 5領域
◇ 数学（中） 4領域
◇ 理科（中） 4領域
◇ 英語（中） 3領域

②児童生徒質問紙調査

- 質問数 小学校は94問、中学校は113問
- 回答方法 小学校（選択回答式）、中学校（選択回答式）
- 質問内容 小学校、中学校ともにほぼ同じ内容（教科数等の差による違いあり）
 - 家庭での学習
 - 宿題
 - 読書
 - 学ぶ意欲
 - 学校での様子
 - 家での生活
 - 自分自身のこと
 - 家族のこと
 - 社会のこと
 - とちぎっ子学習状況調査のこと
 - 教科の学習のこと

【H31 問題別比較】 とちぎっ子学習状況調査結果の下野市と県平均との比較

(基礎) = 「基礎・基本」の問題、(活用) = 「思考・判断・表現」の問題

◎大きく上回っている (5ポイント以上) ○上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

ー同じ (±1ポイント未満)

▽下回っている (1ポイント以上5ポイント未満) ▼大きく下回っている (5ポイント以上)

小学校4年	平成31年度	小学校5年	平成31年度	中学校2年	平成31年度
国語 基礎	○	国語 基礎	○	国語 基礎	○
国語 活用	○	国語 活用	○	国語 活用	○
算数 基礎	○	算数 基礎	○	社会 基礎	○
算数 活用	○	算数 活用	◎	社会 活用	◎
理科 基礎	○	理科 基礎	○	数学 基礎	○
理科 活用	○	理科 活用	○	数学 活用	○
				理科 基礎	○
				理科 活用	○
				英語 基礎	◎
				英語 活用	◎

※基礎 = 「基礎・基本」の問題

※活用 = 「思考・判断・表現」の問題

【H31 領域別比較】 とちぎっ子学習状況調査結果の下野市と県平均との比較

◎大きく上回っている (5ポイント以上) ○上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

ー同じ (±1ポイント未満)

▽下回っている (1ポイント以上5ポイント未満) ▼大きく下回っている (5ポイント以上)

小学校国語	4年	5年	小学校算数	4年	5年
話すこと・聞くこと	○	○	数と計算	○	○
書くこと	◎	◎	量と測定	○	○
読むこと	○	○	図形	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	ー	数量関係	○	○
小学校理科	4年	5年			
物質・エネルギー	○	○			
生命・地球	○	○			

中学校国語	2年	中学校社会	2年
話すこと・聞くこと	○	世界の地域構成	ー
書くこと	◎	世界各地の人々の生活と環境	◎
読むこと	○	世界の諸地域	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	古代までの日本	○
		中世の日本	◎
中学校数学	2年	中学校理科	2年
数と式	○	エネルギー	○
図形	○	粒子	○
関数	ー	生命	○
資料の活用	○	地球	◎
中学校英語	2年		
聞くこと	◎		
読むこと	◎		
書くこと	◎		

① 教科に関する調査結果について

【小学校4年生】

国語では、「書くこと」で県平均正答率を9ポイント以上、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で2ポイント以上、他の2領域で1ポイント以上上回りました。

算数では、「量と測定」で県平均正答率を3ポイント以上、「数と計算」、「図形」、「数量関係」で2～3ポイント程度上回りました。

理科では、「物質・エネルギー」「生命・地球」の2領域で県平均正答率を2～3ポイント程度上回りました。

【小学校5年生】

国語では、「書くこと」で6ポイント以上、「話すこと・聞くこと」で3ポイント以上、「読むこと」で1ポイント以上上回りました。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は同程度の結果でした。

算数では、「図形」で4ポイント以上、他の3領域でも3ポイント程度上回りました。

理科では、「物質・エネルギー」、「生命・地球」の2領域で2ポイント程度上回りました。

【中学校2年生】

国語では、「書くこと」で県平均正答率を7ポイント以上、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」では3ポイント以上、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では1ポイント以上上回りました。

社会では「中世の日本」で県平均正答率を7ポイント以上、「世界各地の人々の生活と環境」で5ポイント、「世界の諸地域」、「古代までの日本」で3～4ポイント程度上回りました。「世界の地域構成」は同程度の結果でした。

数学では、「資料の活用」で県平均正答率を4ポイント以上、「数と式」、「図形」で3ポイント以上上回りました。「関数」は同程度の結果でした。

理科では、「地球」で県平均正答率を5ポイント以上、「エネルギー」、「生命」では3ポイント以上、「粒子」では2ポイント以上上回りました。

英語では、「書くこと」で県平均正答率を7ポイント程度、「読むこと」で6ポイント以上、「聞くこと」で5ポイント以上上回りました。

② 児童生徒質問紙調査結果について

【小学校4年生】

94項目のうち質問別肯定率が算出できる80項目中、27項目が県平均と同程度か上回る結果となりました。特に、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」、「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の項目が高い結果となりました。

【小学校5年生】

94項目のうち質問別肯定率が算出できる80項目中、42項目が県平均と同程度か上回る結果となりました。特に、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」、「自分は勉強がよくできる方だと思う」、「次の教科などの学習は好きですか。（総合的な学習の時間）」、「授業の中で、目標（めあて・ねらい）がしめされている」、「次の教科などの学習は好きですか。（国語）」の項目が高い結果となりました。

【中学校2年生】

113項目のうち質問別肯定率が算出できる97項目中、62項目が県平均と同程度か上回る結果となりました。特に、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」、「次の教科などの学習は好きですか。（英語）」、「英語の授業のコミュニケーション活動において、コミュニケーションが途切れそうになるときには、様々な手立てを用いて、コミュニケーションを継続しようとしている」、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」、「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の項目が高い結果となりました。

今後、この結果をさらに詳しく分析し、学校・家庭・地域における学習指導や生活指導の工夫改善等に生かし、児童・生徒のさらなる学力向上につなげていきたいと考えています。